

【ESD学習支援活動】

奈良市立済美南小学校 野外活動 支援報告書

英語教育専修 学部4回生 谷垣徹

1. 実施日 平成29年5月23日(火)
2. 場所 奈良市青少年野外活動センター(奈良市阪原町25-1)
3. 参加者 英語教育専修 学部4回生 谷垣徹、森本珠美怜(学校での前日事前指導のみ参加)
数学教育専修 学部4回生 杉田岳史
国語教育専修 学部2回生 丸本まりな
教職大学院 大学院1回生 谷内裕也
奈良市立済美南小学校 第5学年児童32名(男子9名、女子23名)
奈良市立済美南小学校 引率教員6名(学級担任:中村友弥先生)

4. 活動支援内容

平成29年5月23日(火)、奈良市青少年野外活動センターにおいて、奈良市立済美南小学校第5学年の野外活動が行われ、本学学生がその支援に当たった。1泊2日のうちの1日目に関わり、柳生オリエンテーリング、野外炊飯、キャンプファイヤーなどの活動に関わった。

今回の野外活動支援を通して学んだことを、以下の3点で振り返る。第1に児童の安全管理について、第2に担任の先生の児童への関わり方について、第3に事前の関わりについてである。

第1の児童の安全管理について。今回オリエンテーリングの行程で2名の熱中症者が出た。柳生の山を越えるコースは、児童が仲間と団結して精一杯歩き切るという非常に達成感のあるコースであるが、その分児童の体調観察が非常に重要となる。長いコースの中間地点でいったん全員が合流して昼食休憩を取り、体調観察ができるスケジューリングの良さ、活動班に付く教員や学生スタッフの存在の重要性を強く感じた。

第2の担任の先生の児童への関わりについて。この学年は単学級で、学年のすべての児童が同じ学級で生活を送っている。他の児童や人々との出会いが少ない分、一つひとつの出会いを大切にす指導、目指す児童像や学級像に向けた指導、それらを意識した子どもたちとの関わりからは、大変多くのことを学ぶことができた。キャンプファイヤーの最後に学級の児童らと先生とで一つの火を囲む光景を見て、自分もこのような先生、学級づくりを目指したいと感じた。

第3の事前の関わりについて。今年度は初の試みとして、当日の支援に加えて事前に学校を訪問してキャンプファイヤーで使用する歌の指導などを行った。事前指導で児童と関わることで、当日の進行が円滑に行えることはもちろん、児童にとってもより安心して活動に取り組むことができる。私たち学生にとっては実際の学校現場に入り、児童や先生方と関わることができ、有意義な学びを得ることができる。今後はこのような事前の関わりも重視して支援を行っていきたいと感じた。

以上が今回の支援を通して得た学びである。済美南小学校の野外活動には、奈良教育大学として過去数年にわたって継続的に支援に関わっている。このように毎年支援の依頼をいただけることは学生としても非常にありがたいことである。今後もこの繋がりを大切にして、継続的に関わっていきたいと感じた。



スタンプ発表をする児童の様子